

999P0096 0300-04

日本国特許庁

PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

JCS25-U.S. PTO
09/238261



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
る事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
in this Office.

願年月日
Date of Application:

1998年 1月31日

願番号
Application Number:

平成10年特許願第033830号

願人
Applicant(s):

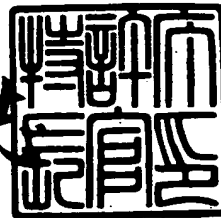
ソニー株式会社

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

1998年10月30日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

伴佐山建志



出証番号 出証特平10-3087145

【書類名】 特許願

【整理番号】 9706138602

【提出日】 平成10年 1月31日

【あて先】 特許庁長官 荒井 寿光 殿

【国際特許分類】 H03M 7/00

【発明の名称】 番組選択履歴情報取得装置及びその方法

【請求項の数】 6

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都品川区北品川6丁目7番35号ソニー株式会社内

 【氏名】 井上 肇

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都品川区北品川6丁目7番35号ソニー株式会社内

 【氏名】 角山 伸治

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都品川区北品川6丁目7番35号ソニー株式会社内

 【氏名】 清水 潔

【特許出願人】

 【識別番号】 000002185

 【氏名又は名称】 ソニー株式会社

 【代表者】 出井 伸之

【代理人】

 【識別番号】 100082740

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 田辺 恵基

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 048253

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

特平 1 0 - 0 3 3 8 3 0

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9709125

【書類名】 明細書

【発明の名称】 番組選択履歴情報取得装置及びその方法

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

電源供給手段によつて供給される所定の電源を基に動作し、複数チャンネルの番組の中から選択された番組の選択履歴情報を取得する番組選択履歴情報取得装置において、

上記番組の選択情報を所定の取得タイミングで記憶する記憶手段と、

複数の上記取得タイミングごとに記憶された複数の上記選択情報からなる上記選択履歴情報を所定の送信タイミングで通知先に送信する送信手段と、

上記電源が供給されているか否かを検出する電源検出手段と、

上記電源検出手段によつて上記電源の投入開始が検出された後、上記選択履歴情報を記憶して送信する設定が行われた場合、上記選択履歴情報を上記記憶手段に記憶して上記送信手段を介して送信する制御手段と

を具えることを特徴とする番組選択履歴情報取得装置。

【請求項 2】

上記選択情報は、上記選択された番組のチャンネルナンバ情報及び選択された時刻を表す時刻情報でなる

ことを特徴とする請求項 1 に記載の番組選択履歴情報取得装置。

【請求項 3】

上記制御手段は、個別に割り当てられている識別番号の入力を受け付けた場合に上記設定の登録を行う

ことを特徴とする請求項 1 に記載の番組選択履歴情報取得装置。

【請求項 4】

電源供給手段によつて供給される所定の電源を基に動作し、複数チャンネルの番組の中から選択された番組の選択履歴情報を取得する番組選択履歴情報取得方法において、

上記番組の選択情報を所定の取得タイミングで記憶し、

複数の上記取得タイミングごとに記憶された複数の上記選択情報からなる上記

選択履歴情報を所定の送信タイミングで通知先に送信し、

上記電源の投入開始が検出された後、上記選択履歴情報を記憶して送信する設定が行われた場合、上記選択履歴情報を上記記憶手段に記憶して上記送信手段を介して送信する

ことを特徴とする番組選択履歴情報取得方法。

【請求項 5】

上記選択情報は、上記選択された番組のチャンネルナンバ情報及び選択された時刻を表す時刻情報でなる

ことを特徴とする請求項 4 に記載の番組選択履歴情報取得方法。

【請求項 6】

上記設定の登録は、個別に割り当てられている識別番号の入力を受け付けた場合に行う

ことを特徴とする請求項 4 に記載の番組選択履歴情報取得方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【目次】

以下の順序で本発明を説明する。

【0002】

発明の属する技術分野

従来技術

発明が解決しようとする課題

課題を解決するための手段

発明の実施の形態

(1) 視聴率調査システムの全体構成 (図 1)

(2) 受信装置の構成 (図 2～図 5)

(3) 実施の形態の動作及び効果

(4) 他の実施の形態

発明の効果

【0003】

【発明の属する技術分野】

本発明は番組選択履歴情報取得装置及びその方法に関し、例えば衛星放送におけるテレビジョン番組の視聴率データを記憶して送信する番組選択履歴情報取得装置及びその方法に適用して好適なものである。

【0004】

【従来の技術】

従来、放送局から放映されているテレビ番組の視聴率は、特定の視聴率調査システムによつて例えば約500～600世帯のサンプル数を基に調査されている。視聴率調査システムは、視聴者のテレビジョン受信器に取り付けられた特定の記憶装置によつて所定の時間間隔ごとにチャンネルナンバ情報と選択された時刻を表す時刻情報とからなる視聴率データを記憶し、当該視聴率データを個々の記憶装置ごとに所定の集計センタに転送することにより集計する。そして集計センタは、このようにして集計した視聴率データを基に番組ごとの視聴率結果を算出し、これを放送事業者や番組制作会社に通知する。

【0005】

放送事業者は、番組ごとの視聴率結果を基に番組の継続や打ち切りを考慮すると共に、番組の合間にコマーシャルを放送しているスポンサー会社に対して視聴率結果を報告することにより、スポンサー契約の続行や、当該視聴率結果を基に新たにコマーシャルを放送するスポンサー会社の発掘を行う。また番組制作会社においては、視聴率結果を基に番組の人気の度合いを判断し、次に制作する新たな番組の内容を検討する。

【0006】

このように放送事業者や番組制作会社にとっては、視聴率結果が大変重要な要因となっており、この視聴率結果が極力多くの視聴者の視聴率データを基に算出されることが望まれている。

【0007】

例えば、近年においては通信衛星を用いた衛星放送が実現化されており、このような衛星放送によつてデジタル化されたテレビジョン信号を受信するものとしてIRD (Integrated Receiver Decoder) と呼ばれる受信装置がある。この

I R Dは、放送局から所定の画像圧縮方法によつて符号化されて放送される多数の番組を通信衛星を介して選択的に受信し得るようになされており、ユーザによつて選択された番組を内部のデコーダを介して復号することによりモニタに表示するようになされている。

【0008】

【発明が解決しようとする課題】

ところでかかる構成のI R Dにおいては、I R D本体に取り付けられた特定の記憶装置によつて視聴率データを記憶し、視聴率の集計センタからの転送要求に応じて視聴率データを送信していた。このため集計センタは、特定の記憶装置が取り付けられたI R Dがユーザ間で譲渡された場合に、譲渡された側のユーザの視聴率データを勝手に集計してしまうことになり、ユーザのプライバシーを侵害してしまうという問題があつた。

【0009】

本発明は以上の点を考慮してなされたもので、ユーザの意思に基づいて選択履歴情報を記憶して送信する番組選択履歴情報取得装置及びその方法を提案しようとするものである。

【0010】

【課題を解決するための手段】

かかる課題を解決するため本発明においては、電源供給手段によつて供給される所定の電源を基に動作し、複数チャンネルの番組の中から選択された番組の選択履歴情報を取得する場合、番組の選択情報を所定の取得タイミングで記憶し、複数の取得タイミングごとに記憶された複数の選択情報からなる選択履歴情報を所定の送信タイミングで通知先に送信し、電源の投入開始が検出された後、選択履歴情報を記憶して送信する設定が行われた場合、選択履歴情報を記憶して送信するようにする。

【0011】

電源の投入開始が検出された後、選択履歴情報を記憶して送信する設定が行われた場合に限つて、選択履歴情報を記憶して送信することにより、ユーザの意思に反して選択履歴情報を記憶して送信することがなくプライバシーを保護するこ

とができる。

【0012】

【発明の実施の形態】

以下図面について、本発明の一実施の形態を詳述する。

【0013】

(1) 視聴率調査システムの全体構成

図1において1は全体として視聴率調査システムを示し、放送事業者（放送局）2は、映像データ及び音声データをMPEG2等の所定の符号化方式でそれぞれ圧縮符号化してパケット化することによりトランスポートストリームを生成する。続いて放送事業者2は、生成した複数チャンネル分のトランスポートストリームをパケット多重化し、これにより得られる多重化ビットストリームを所定の変調方式で変調処理した後、これを送信データD1として例えば10 [GHz] の周波数帯で通信衛星3に送信する。

【0014】

通信衛星3は、送信されてきた送信データD1を受信し、当該送信データD1をトランスポンダ（図示せず）によつて所定レベルに増幅すると共に、例えば1 [GHz] の周波数帯に周波数変換することにより送信データD2を生成し、これを地上の各ユーザ宅4A～4Zに送信する。

【0015】

例えばユーザ宅4Aに設けられたアンテナ6Aは、送信データD2を受信し、これを復調処理することにより得られる受信データストリームD3を受信装置（IRD）5に送信する。IRD5は、受信データストリームD3を多重分離及び復号することにより番組の映像データ及び音声データを復元し、モニタ（図示せず）を介して映像を表示すると共にスピーカ（図示せず）を介して音声を出力する。

【0016】

このときIRD5は、ユーザによつて選択されて試聴された番組の選択履歴情報としての視聴率データを内部メモリに記憶し、1日分の視聴率データD4が蓄積されると、所定の時間帯に公衆電話回線網7を経由して視聴率の集計センタ8

に 1 日分の視聴率データ D 4 を毎日自動的に送信するようになされている。ここで視聴率データ D 4 とは、ユーザが視聴した番組の時刻情報 (t 1) 及びチャンネルナンバ (CH_{NO}) である。

【0017】

集計センタ 8 は、送られてきたサンプル世帯数（この実施の形態の場合 15000 世帯）全ての 1 日分の視聴率データ D 4 を基に番組ごとの視聴率結果を算出し、この視聴率結果データ D 5 を速やかに放送事業者（放送局）2 に通知する。

【0018】

(2) 受信装置の構成

図 2 に示すように、本発明による番組選択履歴情報取得装置を有する受信装置 (IRD) 5 は、まずプラグを介して AC コンセント（図示せず）に接続された電源回路 10 よって電源が供給されて CPU (Central Processing Unit) 22 が立ち上げられると、当該 CPU 22 がユーザのリモコン 27 による操作に応じた処理を実行するようになされている。

【0019】

この CPU 22 は、ユーザのリモコン 27 から出力されたチャンネルナンバを表すリモコン信号 S 1 をリモコン信号受光部 28 によつて受光し、これをリモコン信号 S 2 として入力する。CPU 22 は、入力したリモコン信号 S 2 に応じたチャンネル選択信号 S 3 を生成し、これをフロントエンド部 11 に供給する。

【0020】

フロントエンド部 11 は、アンテナ 6 を介して受信した受信データストリーム D 3 を入力し、通信衛星 3 のトランスポンダ（図示せず）から送信されている受信データストリーム D 3 のうちチャンネル選択信号 S 3 に相当する番組の受信データストリーム D 3 のみをデマルチプレクサ 12 に送出する。

【0021】

デマルチプレクサ 12 は、バッファメモリ 13 に受信データストリーム D 3 を一旦格納した後、カードインターフェース (IF) 20 を介して接続された IC カード 21 に記憶されている契約チャンネルの暗号キー情報を読み出し、当該暗号キー情報と、選択したチャンネルナンバの番組の暗号キー情報とが一致した場

合に、バッファメモリ 13 に格納された受信データストリーム D3 を、CPU 22 の内部で発生するクロック信号に基づいて複数のパケットデータに分離する。

【0022】

そしてデマルチプレクサ 12 は、チャンネル選択信号 S3 に応じたチャンネルナンバの番組のパケットデータだけを取り出し、そのうちの映像データ部分からなるパケットデータ D10 を MPEG2 ビデオデコーダ 14 に供給すると共に、音声データ部分からなるパケットデータ D11 を MPEG オーディオデコーダ 15 に供給する。

【0023】

因みに、IC カード 21 には暗号キー情報以外にもユーザが試聴した番組の試聴時間に応じた課金情報が蓄積されており、集計センタ 8 からの転送要求に応じて当該課金情報が CPU 22 によつて読み出され、モデム 26 及び公衆電話回線網 7 を介して集計センタ 8 へ送信されるようになされている。

【0024】

MPEG2 ビデオデコーダ 14 は、映像データ部分からなる複数のパケットデータ D10 を一旦メモリ 16 に格納した後、CPU 22 の内部で発生するクロック信号に基づいて MPEG2 方式によつて復号することにより、圧縮符号化前の映像データ D12 に変換し、これを NTSC (National Television System Committee) 変換部 18 に送出する。

【0025】

NTSC 変換部 18 は、映像データ D12 を輝度 (Y) 信号、色 (C) 信号及びコンポジット信号からなるビデオ信号に変換してモニタ (図示せず) に出力することにより、当該モニタの画面に選択したチャンネルナンバの番組を表示する。

【0026】

MPEG オーディオデコーダ 15 は、音声データ部分からなる複数のパケットデータ D11 を一旦メモリ 17 に格納した後、MPEG2 ビデオデコーダ 14 と同様に CPU 22 の内部で発生するクロック信号に基づいて MPEG 方式によつて復号することにより、圧縮符号化前の音声データ D13 に変換し、これをデイ

デジタル／アナログ変換部19に送出する。

【0027】

デジタル／アナログ変換部19は、音声データD13に対してデジタル／アナログ変換処理を施すことにより、アナログのL（左）音声信号とR（右）音声信号を生成し、これをスピーカ（図示せず）を介してステレオ音声として出力する。

【0028】

またCPU22は、RAM(Random Access Memory)23、フラッシュメモリ24及びEEPROM(Electrically Erasable Programmable Read Only Memory)25に接続されており、RAM23をワークエリアとして用いることにより各種処理を実行すると共に、RAM23の一部の領域を使用してユーザが試聴した一日分の視聴率データD4を格納し得るようになされている。ここで、RAM23に視聴率データD4を格納する領域は、余裕を持たせて2日以上分の視聴率データD4を格納し得るだけの容量を有している。

【0029】

フラッシュメモリ24は、後述する初期設定画面や識別番号入力画面を表示したり、メニュー画面に基づいてユーザが選択入力したコマンドに応じた処理をCPU22によって行うためのプログラム情報が書き込まれた不揮発性メモリであり、通信衛星3から新たなプログラム情報を受信した場合にはプログラム内容を書換えられるようになされている。

【0030】

EEPROM25も不揮発性メモリであり、IRD5の電源をオフ状態にした場合の最終的なチャンネルナンバ情報やそのときの音量（ボリューム）状態を記憶しておくようになされており、CPU22は電源が再度オン状態になったときに、EEPROM25に記憶されたデータ内容を読み出すことにより、電源がオフ状態になったときと同じチャンネルナンバ及び音量状態に再設定し得るようになされている。

【0031】

ここでIRD5においては、購入された後に初めてプラグがACコンセントに

差し込まれると電源回路 10 が立ち上げられ、当該電源回路 10 によつて電源が供給されると、CPU 22 はまずフラツシメモリ 24 に格納されたプログラム情報を読み出すことにより、モニタの画面に図 3 に示すような初期設定画面 51 を表示する。ユーザは、視聴率申込みを行う意思がある場合には、集計センタ 8 から予め指定されている 5 桁のパスワードを初期設定画面 51 のパスワード入力欄 52 に入力する。

【0032】

この場合 CPU 22 は、パスワード入力欄 52 に集計センタ 8 から指定された 5 桁のパスワードが入力されたことを認識すると、次にモニタの画面に図 4 に示すような認識番号入力画面 53 を表示する。ユーザは、認識番号入力画面 53 の電話番号入力欄 54 に公衆電話回線網 7 に接続された自宅の電話番号を市街局番から入力し、最終的に視聴率申込みを確認する「はい」のアイコン 55 または「いいえ」のアイコン 56 のどちらかを選択する。

【0033】

CPU 22 は、ユーザによつて「いいえ」のアイコン 56 が選択された場合には視聴率申込みの意思がないものとして処理を中止するが、「はい」のアイコン 55 が選択された場合には入力された電話番号を視聴率申込みのユーザ識別番号とし、これをモデム 26 及び公衆電話回線網 7 を介して集計センタ 8 に送信する。集計センタ 8 では送られてきたユーザ識別番号を登録することにより、IRD 5 においてユーザが視聴した一日分の視聴率データ D4 を記憶して集計センタ 8 に自動的に送信する設定の登録が完了する。

【0034】

これにより集計センタ 8 は、IRD 5 からユーザ識別番号と一緒に送信されてきた視聴率データ D4 と、視聴率申込み時に登録したユーザ識別番号とが一致した場合に、その視聴率データ D4 を受け取り、一致しなかった場合にはその視聴率データ D4 を受け付けないようになされている。

【0035】

この場合 IRD 5 は、リモコン 27 によつて送信されてきたリモコン信号 S1 をリモコン信号受光部 28 を介して受光し、CPU 22 がリモコン信号受光部 2

8を介して送られてくるリモコン信号S2に基づいてフロントエンド部11及びデマルチプレクサ12の処理を制御していることにより、ユーザが試聴している番組のチャンネルナンバ情報及び選択された時刻を表す時刻情報を常時認識している。

【0036】

従ってCPU22は、リモコン27の操作によつて電源の供給がオン状態になったときのチャンネルナンバ情報及びその時の時刻情報、及び電源の供給がオフ状態になったときのチャンネルナンバ情報及びその時の時刻情報、並びに試聴している番組が変更された時点のチャンネルナンバ情報及びその時の時刻情報を視聴率データD4としてRAM23の一部の領域に格納する。

【0037】

従つて、チャンネルナンバが一度も変更されなければ電源のオンオフ時の時刻情報と1種類のチャンネルナンバ情報だけが視聴率データD4として格納される。すなわちCPU22は、電源のオンオフ時以外はチャンネルナンバが変更された変化点を表す選択タイミングにおけるチャンネルナンバ情報及びその時の時刻情報のみを試聴率データとしてRAM23に格納することにより、記憶するデータ量を低減させるようになされている。

【0038】

さらにCPU22は、リモコン27及びリモコン信号受光部28から送信されてくるリモコン信号S2に応じてチャンネルナンバ情報と録画開始及び終了時刻からなるビデオ予約情報をRAM23に登録することにより、当該録画開始時刻になるとビデオインターフェース30を介して接続されたVTR(Video Tape Recorder)29を制御してNTSC変換部18及びデジタルアナログ変換部19から供給されるビデオ信号及び音声信号を記録するようになされている。

【0039】

この場合CPU22は、タイマー録画されているチャンネルナンバ情報の他に録画開始及び終了時刻情報を付加情報として付加した視聴率データD4としてRAM23に格納して集計センタ8に送信することにより、当該集計センタ8ではこの視聴率データD4が単に1回だけ試聴されただけデータか、あるいはビデオ

テープに録画されたことにより何回か反復して試聴される可能性があるデータかを判別し得る高精度な視聴率データ D4 として集計することができる。

【0040】

ここで視聴率データ D4 は、図 5 に示すようにヘッダ部分 61 とデータ部分 62 とに分かれ、ヘッダ部分 61 はユーザの電話番号を 40 ビットで表す識別番号情報領域 63 と、記憶された視聴率データ D4 の年月日を 16 ビットで表す日時情報領域 64 と、記憶された視聴率データ D4 のサンプル数（すなわち電源供給のオンオフ時及び番組を変更する度に得られる視聴率データ D4 の個数）を 16 ビットで表すサンプル情報領域 65 によつて構成されている。またデータ部分 62 は、電源の供給をオン及び又はオフしたときのチャンネルナンバ情報とその時の時刻情報、及びユーザが所望の番組を試聴するために変更したチャンネルナンバ情報とその時の時刻情報とを 40 ビットで表している。

【0041】

CPU 22 は、このようなデータ構造の選択情報を一日分（例えば前日の PM23:00:00～当日の PM22:59:59）蓄積して RAM 23 に格納した後、当日の PM23:00:00～翌朝の AM07:00:00 の間に、一日分の複数の選択情報からなる選択履歴情報としての視聴率データ D4 をモデム 26 及び公衆電話回線網 7 を介してフリーダイヤルで自動的に送信するようになされている。この場合 CPU 22 は、視聴率データ D4 を回線の空いている PM23:00:00～翌朝の AM07:00:00 の間に送信するようにしたことにより、回線の混雑を回避することができる。

【0042】

ここで CPU 22 は、内部に乱数発生部 22A を有しており、当該乱数発生部 22A によつて 15000 世帯分の IRD 5A～5Z 全てに固有の乱数を発生し、当該乱数に応じた 1 分間の送信時間帯を各ユーザの電話番号（識別番号）に割り当てることにより、視聴率データ D4 を PM23:00:00～AM07:00:00 の間に送信する際に 15000 世帯数分の呼が重なることなく効率良く送信し得るようになされている。

【0043】

この場合、15000 世帯分の IRD 5A～5Z は個別に割り当てられた 1 分間の

送信時間帯で視聴率データD4を送信することにより、集計センタ8では所有する50回線によつて5時間で15000世帯分の視聴率データD4を全て収集することができる。これにより集計センタ8は、課金情報の収集のようにデータの転送要求を個別に送信することなく、15000世帯数分の視聴率データD4を確実にかつ容易に集計することができ、当該15000世帯数分の視聴率データD4を基に一日分の視聴率結果データD5を算出し、これを放送事業者2に速やかに通知することができる。

【0044】

ところでIRD5においては、電源回路10の内部に停電検出回路10Aを有しており、当該停電検出回路10Aによつて停電（すなわち電源回路10によつて電源が供給されなくなったこと）を検出し、その後電源回路10によつて電源が供給されるようになったことを検出すると、CPU22は一度設定登録された視聴率申込みをリセット状態にして初期設定画面51（図3）を再度表示するようになされている。

【0045】

すなわちIRD5は、ユーザ間で本体の譲渡があつた場合には必ずプラグがACコンセントから外されるので、この場合にCPU22は電源が供給されなくなったことを検出し、その後プラグがACコンセントに差し込まれて電源回路10によつて電源が供給されるようになると、初期設定画面51を再度モニタに表示する。

【0046】

これにより、IRD5本体を譲渡されたユーザは初期設定画面51を見て視聴率申込みのパスワードを入力するか否かを判断する。このとき譲渡された側のユーザは視聴率申込みを行う意思がある場合に、集計センタ8から指定された5桁のパスワードを入力し、次に表示される識別番号表示画面53（図4）の識別番号入力欄54に自身の電話番号を入力する。このときIRD5は、譲渡されたユーザの視聴率申込みがあつたことを初めて認識し、視聴率データD4を記憶して自動的に送信する設定登録を改めて行うようになされている。

【0047】

これにより集計センタ8では、譲渡されたユーザの識別番号が付加された視聴率データD4がIRD5から送信されてくると、登録された識別番号と視聴率データD4に付与された識別番号とを比較し、識別番号が一致したときにその視聴率データD4を受け取り、識別番号が一致しなかったときには、その視聴率データD4を受け取らないことにより、視聴率申込みを行ったユーザの視聴率データD4のみを集計するようになされている。

【0048】

(3) 実施の形態の動作及び効果

以上の構成において、IRD5は一旦ユーザによる視聴率申込みを受け付け、視聴率データD4を記憶して自動的に送信し得る状態に設定した後、電源回路10によつて電源が供給されなくなり、再度電源が供給されるようになったことを検出した場合には、再度ユーザによる視聴率申込み登録がなされるまでは視聴率データD4を記憶して自動的に送信し得る設定の登録を行わないようにしたことにより、ユーザの意思に反して勝手に視聴率データD4を記憶して送信することを防止できる。

【0049】

これによりIRD5は、常にユーザによる視聴率申込みを受け付けた場合に限つて視聴率データD4の集計許可があつたものと認識し、この視聴率申込みを受け付けたときから視聴率データD4を記憶及び送信するようにしたことにより、ユーザの意思に基づいて視聴率データD4を記憶して送信することができる。

【0050】

以上の構成によれば、IRD5は停電検出回路10Aにより電源の投入開始が検出された後、視聴率データD4を記憶して送信する設定の登録が行われた場合に限つて、CPU22が視聴率データD4をRAM23に記憶してモデム26を介して送信することにより、ユーザ間で本体の譲渡があつた場合で譲渡された側のユーザによつて改めて視聴率申込みの登録がなされた場合に限つて視聴率データD4を記憶して送信することができる。これによりIRD5は、ユーザの視聴率データD4が集計されることの許可を確実に得てから視聴率データD4を記憶して送信することになるのでユーザのプライバシーを完全に保護することができる。

【0051】

(4) 他の実施の形態

なお上述の実施の形態においては、IRD5の内部に設けられたRAM23の一部の領域を用いて視聴率データD4を記憶するようにした場合について述べたが、本発明はこれに限らず、視聴率データD4だけを記憶するメモリを個別に設け、そこに視聴率データD4を記憶するようにしても良い。

【0052】

また上述の実施の形態においては、一度初期設定画面51及び識別番号入力画面53を用いて視聴率申込みの設定を行なった後、電源の供給がオフ状態になった後にオン状態に戻った場合に初期設定画面51及び識別番号入力画面53を再度表示してユーザに視聴率申込みの設定を行わせるようにした場合について述べたが、本発明はこれに限らず、識別番号入力画面53だけを再度表示して視聴率申込みの設定を行わせるようにする等、要は自動的に視聴率データD4を記憶及び送信する設定に戻すのではなくユーザの意思に基づいて再度設定させるのであれば他の種々の方法によつて設定するようにしても良い。

【0053】

さらに上述の実施の形態においては、本発明の番組選択履歴情報取得装置をIRD5の内部に設けるようにした場合について述べたが、本発明はこれに限らず、外部に設けてIRD5と接続して用いるようにしても良い。

【0054】

さらに上述の実施の形態においては、本発明の番組選択履歴情報取得装置を記憶手段としてのRAM23及びCPU22、送信手段としてのモデム26及びCPU22、電源検出手段としての停電検出回路10A、制御手段としてのCPU22によつて構成するようにした場合について述べたが、本発明はこれに限らず、他の種々の記憶手段、送信手段、電源検出手段及び制御手段によつて構成するようにしても良い。

【0055】

さらに上述の実施の形態においては、本発明の番組選択履歴情報取得装置を視

聴率データ D4 を記憶して自動的に送信するデジタル衛星放送用の受信装置 (IRD) 5 に適用するようにした場合について述べたが、本発明はこれに限らず、通常の地上波放送のテレビジョン受信装置やケーブルテレビジョンのテレビジョン受信装置、あるいは音声情報や文字情報を受信するラジオ受信装置に適用するようにしても良い。

【0056】

【発明の効果】

上述のように本発明によれば、電源の投入開始が検出され、選択履歴情報を記憶して送信する設定が行われた場合に限って、選択履歴情報を記憶して送信することにより、ユーザの意思に反して選択履歴情報を記憶して送信することがなくプライバシーを保護することができ、かくしてユーザの意思に基づいて選択履歴情報を記憶して送信し得る番組選択履歴情報取得装置及びその方法を実現できる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の一実施の形態における視聴率調査システムの構成を示すブロック図である。

【図 2】

本発明の一実施の形態における IRD の構成を示すブロック図である。

【図 3】

本発明の一実施の形態における初期設定画面を示す略線図である。

【図 4】

本発明の一実施の形態における識別番号入力画面を示す略線図である。

【図 5】

本発明の一実施の形態における視聴率データのデータ構造を示す略線図である。

【符号の説明】

1 …… 視聴率調査システム、 2 …… 放送事業者、 3 …… 通信衛星、 5 …… IRD、 7 …… 公衆電話網、 8 …… 集計センタ、 10 …… 電源回路、 11 …… フロン

トエンド部、12……デマルチメレクサ、22……CPU、23……RAM、26……モデム、27……リモコン、28……リモコン信号受光部。

【書類名】

図面

【図 1】

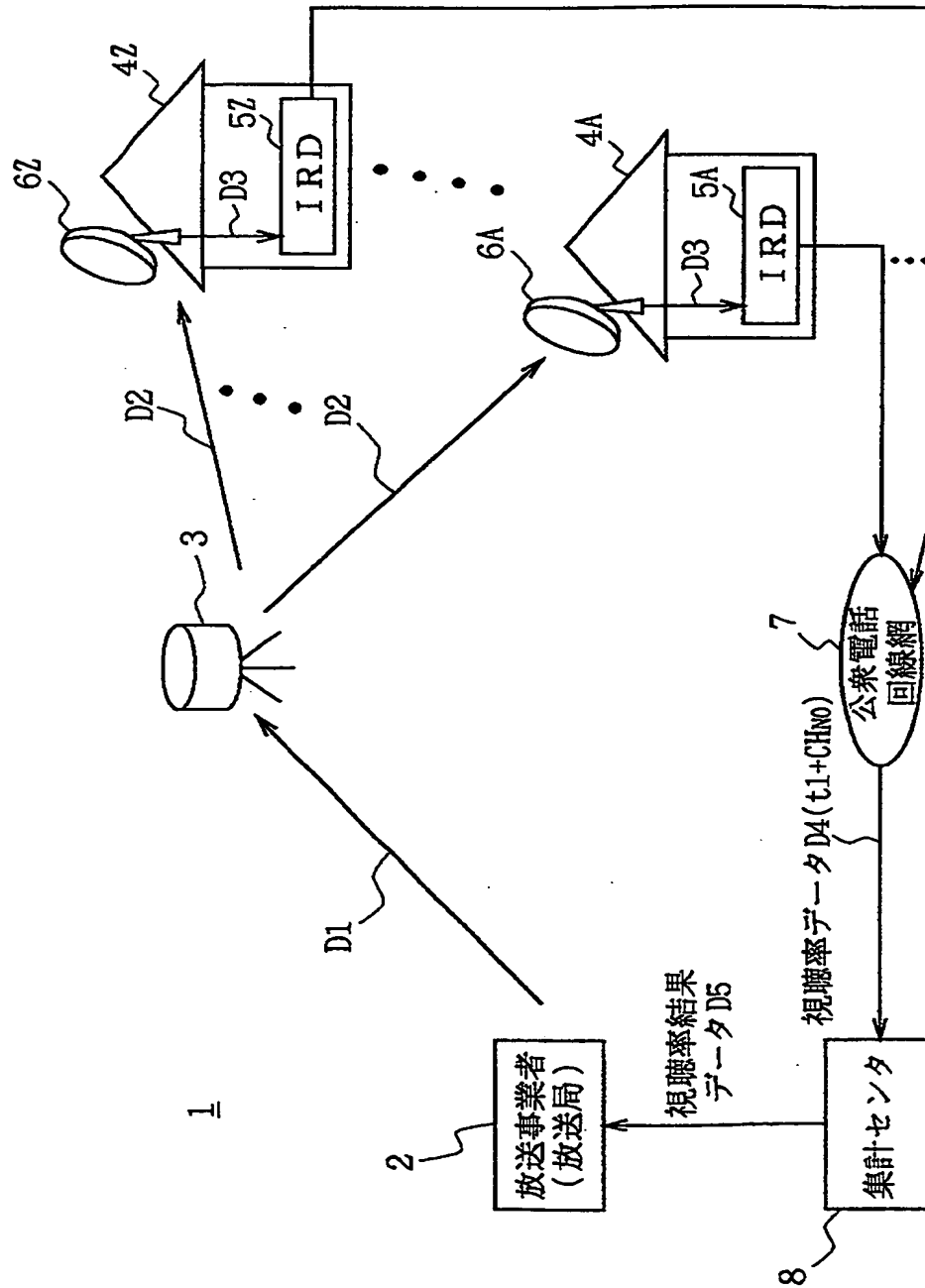


図 1 視聴率調査システム

【図2】

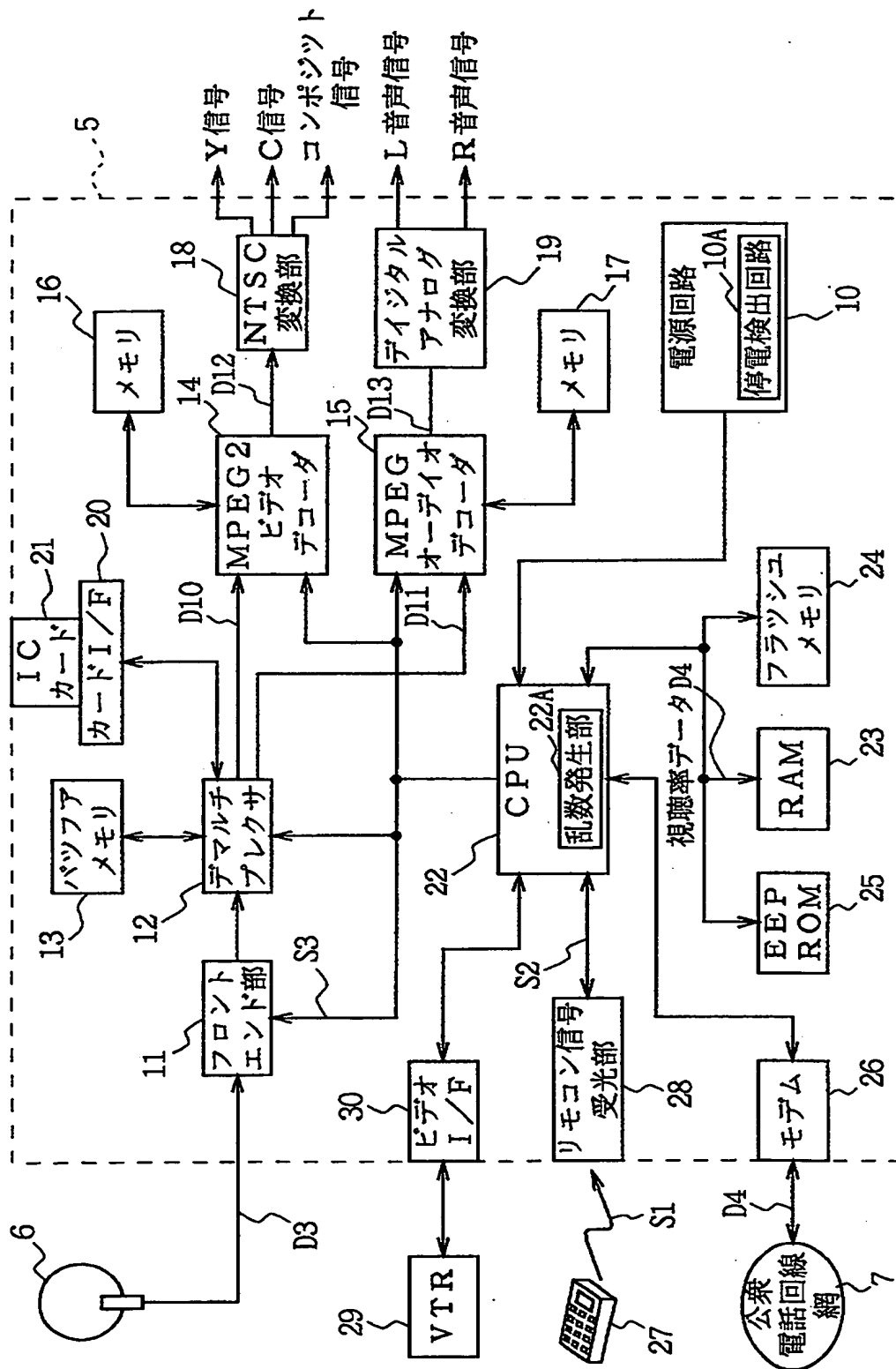


図2 IRDの構成

【図 3】

視聴率申し込み

パスワード 52

51

図 3 初期設定画面

【図 4】

電話番号入力（識別番号） 54

0 3 - 1 2 3 - 4 5 6 7

申し込みを行いますか？

はい 55 いいえ 56

53

図 4 識別番号入力画面

【図 5】

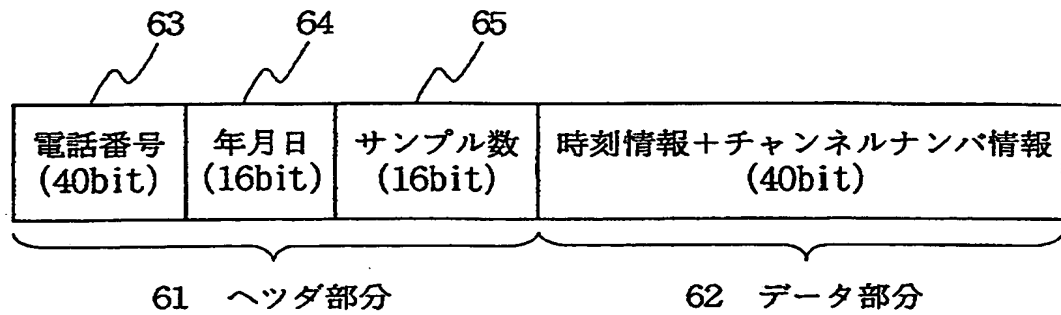


図 5 視聴率データのデータ構造

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】

本発明は、ユーザの意思に基づいて選択履歴情報を記憶して送信するようにする。

【解決手段】

本発明は、電源供給手段によつて供給される所定の電源を基に動作し、複数チャンネルの番組の中から選択された番組の選択履歴情報を取得する場合、番組の選択情報を所定の取得タイミングで記憶し、複数の取得タイミングごとに記憶された複数の選択情報からなる選択履歴情報を所定の送信タイミングで通知先に送信し、電源の投入開始が検出された後、選択履歴情報を記憶して送信する設定が行われた場合、選択履歴情報を記憶して送信するようにする。

【選択図】 図 2

【書類名】 職権訂正データ
【訂正書類】 特許願

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】

【識別番号】 000002185

【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号

【氏名又は名称】 ソニー株式会社

【代理人】 申請人

【識別番号】 100082740

【住所又は居所】 東京都渋谷区神宮前一丁目 11 番 11-508 号

グリーンフアンタジアビル 5 階 田辺特許事務所

【氏名又は名称】 田辺 恵基

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000002185]

1. 変更年月日 1990年 8月30日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都品川区北品川6丁目7番35号

氏 名 ソニー株式会社